

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No.

17

2004. 11

特集 ぐるっと図書館アートの旅



『星乃ミミナ・愛と夢のコンサート』 日時：平成16年8月21日（土）
場所：宮城県図書館 2階 ホール養賢堂

●「夜と言葉」

三浦明博

夜、十一時に近い時刻、テーブルの上には酒が入ったグラス。たばこと灰皿、そして一冊の本を用意する。小説でも随筆でも、その日その時読みたいものなら何でも構わない。家族はすでに寝静まり、外からは物音も聞こえてこない。この中に初めて出会う何かが待っているという期待に胸を膨らませつつ、最初のページをめくる。

仕事ではなく、純粹な愉しみとして本を読む。これは自分の中でもっとも長く続いている習慣の一つだ。もちろん昼食時にも本を持っていく。食べながら読むのは行儀が悪いとわかつてはいるが、癖になっけてやめられない。

それでも自分の中で、読書はなぜか夜の世界に属している。太陽は肉体と結びつき、月は空想を支配する。理由は判然としないが、そう考えているふしがある。暗くて静かなほうが、言葉はより深く沁みる。そんな思い込みがどこかにあるのかもしれない。

（みうら・あきひろ 作家）